

私は諸塚村のことが大好きです。朝目が覚めた時から聞こえる鳥のさえずり、窓を見れば外には緑の山々が広がっています。自然が豊かで村民の方々も温かい。諸塚村で過ごせる毎日は宝物です。そんな諸塚村は今、大きな問題を抱えています。少子高齢化です。日本全国で問題になっていますが、諸塚村はより深刻です。そんな時代だからこそ、私は諸塚村にどんな人でも安心して過ごせるような村になって欲しいです。

私たちは、社会科の時間で「諸塚村の課題をどうしたら解決できるのか」という内容の授業をしました。九州や四国、中国地方の取り組みや、課題などの事例を学びました。そして、そこで学んだことを、諸塚の問題解決に活かすにはどうしたらよいかを考えました。

その授業の中で、利便性を上げるために作られた道路によって、地方の人口が大都市に吸い寄せられるというストロー現象について学びました。それを、諸塚村のことに繋げて考えてみました。諸塚村では飯干バイパス開通という大きな計画があります。この道ができれば、五ヶ瀬町や高千穂町、熊本県や大分県への移動時間が大幅に短縮されます。七ツ山集落から、高千穂病院までは現在 47 分かかります。しかし、この道ができれば 19 分まで短縮されます。つまりこの道ができることで助かる命が増えるということです。これは、誰もが安心して過ごせる村づくりに繋がります。また、村を出て行ってしまった若い人達の帰省もしやすくなります。諸塚村では自然を生かした仕事が多く、村でできる仕事の種類は多くありません。しかし、他の地域のようなストロー現象が起こることはなく、「諸塚に住みながら、周辺の市町村へ仕事に通う。」そんなことも可能になります。つまり、飯干バイパス開通は諸塚を活気づけ、誰もが安心して過ごすためには欠かせない存在になっていくと思います。

また、諸塚村には知られていないだけでたくさんの魅力があります。

森林は世界農業遺産に認定され、FSC にも認証されました。東京の国立競技場の一部にもその木材は使用されました。そこで、わたしたち 2 年生は諸塚の課題である少子高齢化を少しずつ解決するために「諸塚ブランドの価値を高める」必要性を感じています。

現在、様々な環境破壊や異常気象により、多くの人たちが苦しんでいる状況があり、世界は「自然を大切に、共存しよう」という大きな流れがあります。そこから、世の中は環境に配慮し持続可能な製品を求める時代になっています。そこで、木材の原材料そのままやこれまでの伝統的な製品だけでなく、時代のニーズに合った商品を「諸塚ブランド」として世の中に出していくとよいと思います。例えば、諸塚の木材を使ったスマホケースや、木材から選べるオーダーメイド家具、しいたけを使用したインスタント製品などです。そして、「諸塚の商品を使うこと」イコール「環境に負荷をかけない、環境に優しい」というブランドを確立させていきます。また、その製品情報を海外にも発信していくことで、さらにブランドの価値が上がっていくと思います。

これらの活動を行うことで、諸塚の産業が盛り上がり働く場所も増えていきます。働く場所が増えることで、一度諸塚を出た若い人が戻ってくるきっかけになると思います。また、諸塚ブランドに興味を持った他県、他国の方が「環境に配慮した持続可能な仕事」があり大自然の中で生活できる諸塚に魅力を感じ、諸塚に移住したいと思うきっかけにもなるかもしれません。

さらに、UターンやIターンしようと思う人が林業や森林について学びながら生活する場所を作り、そこで諸塚のそのほかの産業や村の魅力についてもゆっくり知ることができるとよいのではないかと考えています。

このように、諸塚は知れば知るほど可能性のある素晴らしい村です。そんな諸塚村で育ち、たくさんのことを学んできました。そしてこれからもたくさんのことを学んでいきます。その学んだことを諸塚村のために生かしたいです。私が諸塚村のためにできることは小さいことですが、まだまだたくさんあると思います。諸塚村のために一緒に「未来」について考えていきましょう。